

令和4年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月27日実施)	総合評価(3月15日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>・児童・生徒の自立と社会参加を目指した教育活動を実践する。</p> <p>・ICT機器等の有効利用による多様な授業の実践・研究を推進する。</p>	<p>①授業改善につながる研究を重ね、よい授業実践を行う。</p> <p>②これまでのICT機器を活用した授業実践が継続できるようにする。</p>	<p>①授業改善の研究が授業実践に生きる研究の充実を図り、研究の成果を発信する。</p> <p>②ICT機器の継続的な使用のために、ネットワーク状況の的確な把握につとめるとともに、学校自前のネットワークの整備の拡大を模索していく。</p>	<p>①研究したことを授業実践に生かすことができたか。発信することができたか。</p> <p>②ICT機器を活用した授業実践の継続ができたか。</p>	<p>①達成した。 ・授業力向上に向け、学部を超えた8グループに分かれ、教員のニーズに合わせたテーマを設定して研究・研修活動を推進することができた。 ・国立特別支援教育総合研究所の「学びラボ」を全職員で活用した。</p> <p>・誰でも操作できる入力装置の研究を行い、その利用が授業以外にも広がった。</p> <p>②達成した。 夏季休業中に14回研修を実施した。また、同時に複数の授業を配信できるよう小型ブース3台を整備した。</p>	<p>① ・「学びラボ」の活用で、病弱教育のみならず、特別支援教育の基礎的な知識をオンデマンドで学び、学校全体の教育力が上がってきている。今後も活用したい。</p> <p>・入力装置の研究は、入所施設での利用にも波及している。今後も成果を校外で共有し、発展につなげていきたい。</p> <p>②ICTの更なる活用に向け、教師個々のスキルアップを図るために、研修プログラムを整理していききたい。</p>	<p>・専門機関との連携は、貴重であるため、今後も連携を深めていって欲しい。</p> <p>・授業内容が、社会生活に直接役立っている好事例だと思われる。今後は、様々な実践例について、広く発信できるとよい。</p> <p>・活動が制限されている子どもたちにとって、疑似体験は大変貴重なことなので、是非続けて欲しい。今後、感染症対策が緩和されたら、実際に体験する、実際に対面で話し合うという機会も保障できるとよい。</p>	<p>・障害特性の理解や、治療の過程での配慮事項などを学ぶことに加え、準ずる教育課程であることも踏まえ、授業力を向上させていく必要がある。</p> <p>・学校と生活支援課が協力して、児童・生徒の力を育んだ好事例である。今後も事例を積み重ねていきたい。</p> <p>・ICTを活用した授業の展開について、機器の管理方法やルール、マナーなど、情報リテラシー教育にも力を入れていく必要がある。</p>	<p>・引き続き「学びラボ」等を活用し、特別支援教育に関する専門性を高めるとともに、準ずる教育課程に関する知識や技能も高めていきたい。</p> <p>・病院スタッフとも連携して児童・生徒の一日がより充実したものになるように努めたい。</p> <p>・引き続き、インターネット教室などを活用し、情報モラルを高める指導を積み重ねていきたい。</p>
2 児童・生徒 指導・支援	<p>・児童・生徒一人ひとりの個性や医療状況を尊重し、教育的ニーズに応じた指導・支援を組織的に行う。</p>	<p>①自尊感情を育み自分や他者を大切にする教育に取り組む。</p> <p>②個別教育計画が児童・生徒の指導・支援の有効なツールとなるようにする。</p>	<p>①児童・生徒の自己理解、他者理解をすすめ、コミュニケーション力の育成に努める。</p> <p>②書式の検討も含め、個別教育計画をツールとして、特に目標とすることを共有する仕組みづくりを行う。</p>	<p>①児童・生徒が理解協力する教育活動の場を作ることができたか。</p> <p>②個別教育計画を共有する仕組みを作り共有できたか。</p>	<p>①概ね達成した。 集会や児童会生徒会活動等、異年齢集団での活動の際に教室と各病室をテレビ会議システムでつなぐことで、病棟児童・生徒も含めて触れ合う機会を設定することができた。</p> <p>②概ね達成した。 保護者からの聞き取りも含め、丁寧に作成することができた。</p>	<p>①オンライン遠足は病棟の児童・生徒も参加でき、好評であった。今後は、テレビ会議システムでの活動を広げていくことで学習の保障、多様な体験の提供に努めたい。</p> <p>②児童・生徒に関わる職員全員が、記載内容についての情報を共有するシステムと変更のサイクルを作り、更なる活用を目指していきたい。</p>	<p>・疑似体験とはいえ、貴重な経験となるため、今後も最新技術を活用しながら、より良い授業展開を期待したい。</p> <p>・日ごろから児童・生徒をしっかり観察するとともに、保護者の思いも丁寧に聞き取ることが大切である。今後も継続し、質を高めていって欲しい。</p>	<p>・配信ブースや機器の整備は一定の成果があった。今後はそれらを有効活用し、他校の児童・生徒との交流について、検討していきたい。</p> <p>・教育の中で実際に有効なツールとしてどのように活用できるか検討を重ねる必要がある。</p>	<p>・今年度の実践を基にして、ICTも活用した様々な方法を用いて、児童・生徒が知り合い、触れ合う機会を作りたい。</p> <p>・紙面での確認だけでなく、口頭での情報共有も含めて、有効な活用を模索したい。</p>
3 進路指導・ 支援	<p>・将来の生活の充実を目指し、進路指導、移行支援、キャリア教育を行う。</p> <p>・将来の生活の充実を目指し、</p>	<p>①地元校の指導を引き継いで、児童・生徒が主体的に自己選択・自己決定できるようにする。</p> <p>②一人ひとりに応じた進路指導</p>	<p>①キャリアパスポートの作成や地元校への引継ぎについて実践を重ねる。</p> <p>②地元校と連携しつつ、病院とも連</p>	<p>①キャリアパスポートを引き継いで積み重ねることができたか。</p> <p>②地元校や病院と連携して適切な進</p>	<p>①概ね達成した。 地元校からの情報を踏まえ、本校の環境に即した課題や目標を設定し、転出時に引き継ぐことができた。</p> <p>②概ね達成した。 今年度は中学部3年生9名が</p>	<p>①引き続き、児童・生徒の主体的な活動を支援するとともに、キャリア教育を推進していきたい。</p> <p>②今後も治療のスケジュール</p>	<p>・退院後、地元校に復学した後のことを見据えて、適切に取り組んでいって欲しい。</p> <p>・受験に際しては、地元校と</p>	<p>・復学支援会議は定着した。また、一定期間後のフォローアップも有効であることが確認された。今後は、小学部でもフォローアップを行っていきたい。</p> <p>・様々な進路選択があ</p>	<p>・フォローアップによって得られた知見を在籍時の支援に活かしていく。</p> <p>・今年の経験を次年</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月27日実施)	総合評価(3月15日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	進路指導、移行支援、キャリア教育を行う。	を行う。	携し、児童・生徒の状況に合わせた適切な進路指導を行うとともに、学部全体で情報共有する。	路指導ができたか、学部で共有できたか。	本校で受検に関わった。全日制普通科、定時制、私立等、多様な受験に適切に対応することができた。院内受検にも対応した。手続きの期日前後に転出、転入があり、地域の学校と連携を取り合っ対応することができた。	等も含めて適切に情報収集を行い、医師、看護師、ソーシャルワーカー、県教育委員会とも連携を密にし、遺漏のないよう指導をしていきたい。また、地元校との引継ぎを、確実に行っていきたい。	連携協力し、フォローアップ体制が取れていることを伝え、生徒や保護者に安心してもらえるとうい。	り対応も多岐にわたったが、無事受験を終わることができた。今回の留意事項を適切に引き継げるようにしていきたい。	度以降にも活かせるように引き継いでいく。
4	地域等との協働	・病弱教育に関する理解・啓発を図り、児童・生徒の地域生活が豊かになるよう支援を行う。	①学校の情報や研修会等の発信を行い、病弱教育についての理解が広がるようにする。  ②児童・生徒が学校生活や地域生活に円滑に移行し、継続できるようにする。	①ホームページの充実や研修研究の発信、支援冊子の改訂・周知等で病弱教育の理解をすすめる。  ②復学支援会議等を丁寧に行うとともに、フォローアップの仕組みを模索し、円滑な地域生活が継続できるようにする。	①病弱教育についての情発信し、病弱教育理解に貢献できたか。  ②復学支援会議とフォローアップにより円滑な地域生活の継続を支援できたか。	①達成した。 ホームページのコンテンツの充実、学校だよりの発行、学習発表展に取組んだ。また学校紹介ビデオを作成し、学校、学部、部門の概要や転編入などについて、病院職員に発信することができた。  ②達成した。 地元校、医療関係者、本校をつないで会議を行った。退院後一定期間を経て、地元校及び保護者に、電話でのフォローアップを2学期末までに14件実施した。	① 今後は個人情報に配慮しながら、地域に向けて発信できるように、コンテンツを整えていきたい。入院予定の家庭に対する発信に加え、病弱支援学校として地域に何を発信していくかが課題である。  ②今後も、復学支援会議で転出後の配慮事項、本人の学習面や対人関係面での不安等に対して、地元校が適切に対応することで学校生活を充実させていきたい。	・プライバシーの関係もあるが、児童・生徒の活動の様子が映像で示されるとイメージがわきやすく、興味をもって視聴してもらえらると思われ。BGMやテロップなども工夫して、是非良いものを発信して欲しい。  ・児童・生徒を地元校と共に支える、素晴らしい取り組みである。今後も是非継続して欲しい。	・病院職員への動画配信は好評であった。また、病院が職員に送信する一斉メールに、本校の情報を添付し情報共有を行った。今後も、この仕組みを活用し、職員に発信していきたい。  ・復学支援会議は定着し、フォローアップも一定の成果を上げた。地元校と本校が、相互に連絡を取りやすい関係づくりが大切である。	・今後は、ホームページについて検討を重ね、ニーズにマッチした情報発信ができるとうい。  ・フォローアップに加え、転入時からの連携を充実させることにより、地元校と本校の両方で児童・生徒を見守る体制を作っていきたい。
5	学校管理 学校運営	・教職員が同僚性を発揮して質の高い教育を展開する。  ・児童・生徒と向き合う時間を確保するために、働き方改革を推進する。	①校内外の協働により、安全安心な教育の場を作る。  ②新しい教育体制での教育を全教職員が協力して取り組む。	①引き続き新型コロナウイルス感染症対策に取り組む他、不祥事・事故防止を図り、安全安心な教育を行う。  ②新しい教育体制への移行により生み出された時間を有効に使うとともに、学部・部門、職種を超えた協力的体制により、組織的な教育活動を行う。	①病院や校内の多職種と協働しての新型コロナウイルス感染防止対策や不祥事・事故防止に取り組めたか。  ②時間の有効活用ができたか、協力的体制による教育を行うことができたか。	①達成した。 病院の感染制御室や各施設と連絡を密に取り合い、適切に感染症対策を進めることができた。安全な学校生活のために、警察と連携した実践的な不審者対応訓練、避難訓練を実施することができた。  ②達成した。 マニュアルを整備したり、ICTを活用した打合せをもったりすることで、職員の連携協力をしやすくすることができた。	①感染症対策に加え、防犯や防災についても検討を重ね、実効性のあるマニュアルを整備していきたい。  ②引き続き、マニュアルや手順書等を整備する過程で業務の精選に取り組む。また、職員が互いに声を掛け合いながら協力し合う学校風土を維持し、働きやすい職場づくりを推進していきたい。	・コロナ後を考えると、単にコロナ前に戻る、というわけにはいかない。何らかの工夫が必要である。  ・職員室内の事務机の一括更新など、職員室の環境整備等を進めてきたことは評価できる。今後も、限られたスペースの中で工夫していく必要がある。	・病院の感染制御室との連携により、安全・安心を実現することができた。今後は、社会一般のルールと、ハイリスク施設としての病院の中にある学校として、慎重な対応をしていくことが課題である。  ・ICTを活用し合理的な業務を行うことができた。	・今後も病院の感染制御室と連携し、教育を進めたい。  ・管理職がコーディネートすることも含め、学校全体で連携協力しあう学校風土を作りながら、対応していきたい。